

萌丘東幼稚園
萌丘東保育園 ほいくだより

2023



ひがしっ子 4月



園長コラム

今年度も新しい仲間を迎え、スタート切れることを職員一同大変うれしく思っております。園運営にあたって、「こどもを中心に保護者と職員にとって良い園を目指す」をスローガンに、保護者の皆様のご理解とご協力のもと、こども達の心と体を支えていく所存です。

さて、新年度ということで、東園の保育活動のおさらいをしておこうと思います。活動全体を通して大切にしている事は、自然の中でできるだけ過ごそうということ。もう一つは、自分でやってみようとする主体性を育むための「自立」と「遊び」を沢山取り入れることです。自然の中で心と体の記憶に残る体験を沢山して、小学生になって欲しいと思っています。

人が何かを習得する際に、物事に主体的にかかわることは欠かせません。呼吸すること以外を養育者にゆだねる赤ちゃん時代から、少しずつ身辺が自立していき、遊びを通してこの時期に学べる全てを学んでいくのが乳幼児期です。幼児教育においては「遊び」とは、とても広い意味合いを含んだ言葉なのです。

自立と遊びは言葉こそ違いますが、本質的に同じ心から生まれます。お母さんみたくなりたいからスプーンに手を伸ばすのと、年長さんみたくなりたいから雲梯を何度も繰り返すのは、同じ気持ちから生まれています。自立したい、遊びたい、上手になりたい、大人になりたい…。それは人の本能的な欲求であり、それが叶うように支えることが大人の役割であり、東園の保育姿勢でもあります。

0～3歳になる頃までは「保育」というより「育児」と言ったほうが理解しやすいかもしれません。こどもの生活習慣の自立を促しながら、それらをしてくれる大人との密なかかわりをとおして、今後の育ちの基礎となる他者への愛着や信頼する力を獲得していきます。家庭の育児機能を丁寧に園内で再現するようなやり方です。

3～5歳頃になってくると遊びの質が2つに分かれてきます。自分の好きな遊びだけをする「自由」な遊びから、友達とも遊びたくなり、楽しむためには相手とどう「調和」すればいいのかを考えて遊ぶことが増えてきます。コミュニティの中でどう立ち振る舞っていくのが、自分にとっても相手にとっても良いのかを、遊びを通して学んでいくとも言えます。アクセルとブレーキのようなもので、この加減を知っていくことはこども達の大きな財産になっていきます。

最後になりますが、こども達には東園でとことん「楽しさ」を体験してほしいと願っています。楽しむために相手のことを考えたり、勝つために工夫したりと色々なことをします。その過程で人は生きていく力を身に付け、次に次にと広がっていきます。

先生とはそれを引き出してあげられる人のことを言うんだと思います。特にこどもの未来は狭めてはいけませんから、「多様な楽しさ」が体験できる東園でありたいと考えています。

「〇〇がこんなに楽しいなんて知らなかった」
そんな心の声がたくさん聞こえる1年間となるように職員一同励んでまいります。

新しい生活

東園は外遊びがたくさん。午前中にクラスの写真を撮りに行こうとしても、おやつやご飯の時くらいにしか部屋にはいないようです。元気いっぱい外で遊んでいる姿をたくさん見る事ができました。

この時期の子育てで外遊びをしている時間はほとんど園のみという保護者も多いのではないのでしょうか。東園で生活していく中で、ライフスタイルの中に取り入れていってもらえることを願っています。



新しい生活

新しいクラスと新しい先生。これからどんな出来事にこども達を待ち受けているのでしょうか。物語は始まったばかりですが、1年後にどんなお話になっているのか本当に楽しみです。

今月はタケノコ堀りやシイタケの菌植えを行っていました。食育として大々的な行事として行うのではなく、日常的にこういった風景があるのが東園の面白さだと思っています。それを大切に続けてくれている先生たちに感謝です。

